

### 大賞『夕映えの富良野線』

富良野線、列車は田園地帯を軽やかな足取りで疾走する。十勝岳の山々、田園風景、そして町並みと変化する車窓風景は飽きることがない。中富良野駅を過ぎ、列車が進むにつれて、十勝岳連峰の美しい山並みが迫ってくる。列車が走り、車が走り、そこに人が住み…。まさに人と自然が共存する風景。地域を感じ、ゆったりと時が流れる富良野線は魅力的だ。

撮影者 生川 淳さん

住所 富良野市在住

撮影場所 中富良野町 H30年5月



#### 【講評】

富良野線は、十勝岳の麓に広がる田園地帯を走り抜けます。そのイメージを最も表現していたのがこの作品。伸びやかで素晴らしい写真です。

### 一般部門：最優秀賞『雪列車』

冬の農地を走る汽車がとても素敵 北海道を駆け抜けて・・・

撮影者 平野 眞佐男さん

住所 札幌市在住

撮影場所 富良野市 H30年1月



#### 【講評】

どんなに厳しい気候でも淡々と走り続ける北国の鉄道は我々の暮らしの一部です。そんなイメージをうまく表現できています。

一般部門：優秀賞『ノロッコと紫の絨毯』

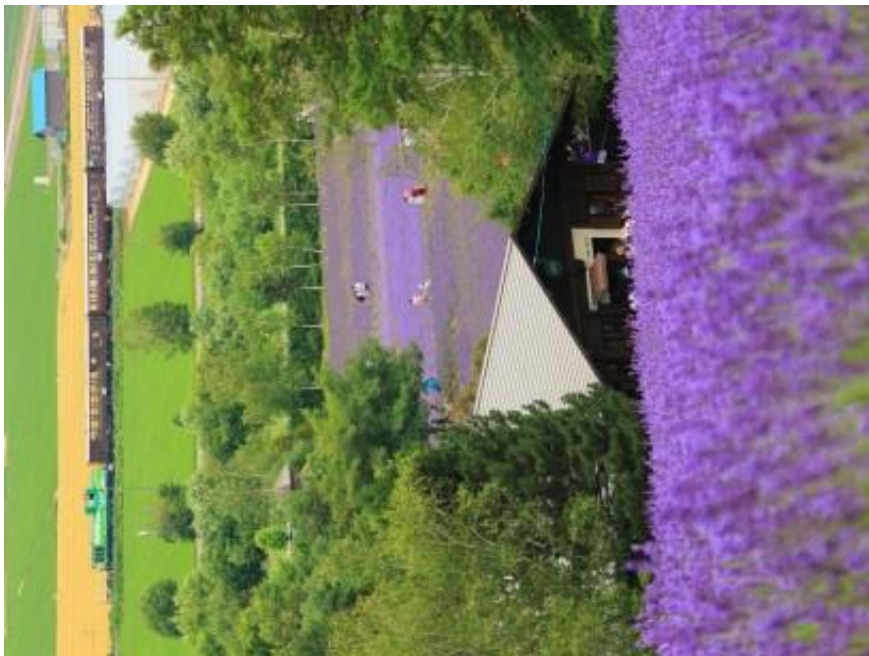
毎年、ラベンダーが咲く頃に運行されるノロッコとラベンダー。トラディショナルラベンダー畑からの景色はまるでラベンダーの絨毯のように見えます。

撮影者 印牧 里枝さん

住所 剣淵町在住

撮影場所 中富良野町 H30年7月

【H】



【E】

【講評】富良野の夏の風物詩、ノロッコ号をラベンダー越しにうまく捉えられています。アングル探しの苦勞が伺える秀作です。

一般部門：優秀賞『初冠雪に守られて』

大雪の山並みに初雪がおりた日。紅葉が進み色濃くなった木々に主峰の白とのコントラストは日本画のようです。その中を悠然と走り抜ける富良野線は地元民の誇れるありふれた日常風景です。

撮影者 山本 義則さん

住所 旭川市在住

撮影場所 旭川市 H29年10月



【講評】秋のすぐそばに冬があるのが北海道でしょう。この場所も、そう遠くないうちに雪に覆われてしまう。そんな想像を掻き立てる作品です。

一般部門：優秀賞『夕陽と列車』

ほんの数秒間だったでしょうか。列車が夕日の下を走りぬけました。光茫が列車の屋根に輝き感動的なシーンでした。いつも散歩する北彩都公園（旭川市）で出会ったシーンです。

撮影者 池永 靖子さん

住所 旭川市在住

撮影場所 旭川市 H30年6月



【講評】ベストタイミングでシャッターを押されましたね。このタイミングを見計らってこの場所を選び、そしてしっかりとカメラを構えていた作者の勝利といえるでしょう。

中学生以下部門：最優秀賞『熱烈歓迎！！』

ノロッコ号とそれを追いかける千小っ子を撮って、それに合う題名にできたと思います。この題名にしたのは、僕達がこの字が書かれたカードを持って見送るからです。いつも笑顔で手を振ります。気持ちいいです。

撮影者 平田 悠人さん

住所 旭川市在住

撮影場所 旭川市 H30年7月



【講評】鉄道よりも人が主役となった作品ですが、富良野線らしさは十分に感じられます。いつまでのこの光景がみられることを願ってやみません。

中学生以下部門：優秀賞『夕日に照らされて』

夕日が好きなので夕陽と列車と一緒に写せる場所を探して撮影しました。いつも自宅の窓から列車を見えています。列車の窓から見る風景を好きですが、写真のように列車と綺麗な風景と一緒に写すのも好きです。

撮影者 齊藤 詩織さん

住所 美瑛町在住

撮影場所 旭川市 H30年6月



【講評】素敵な情景を発見されましたね。夕日の色合いも素敵です。列車にももう少し光が入っていると、より印象的な作品になったでしょう。

中学生以下部門：優秀賞『ノロッコ号が来ます』

いつも自宅の窓からノロッコ号を見ているのでノロッコ号が大好きです。大好きなノロッコ号を写したくて美馬牛駅まで行って撮影しました。丁度、ノロッコ号をホームで待っているお客さんが居ました。

撮影者 齊藤 綾さん

住所 美瑛町在住

撮影場所 美瑛町 H30年8月



【講評】のどかな美馬牛駅の雰囲気がうまく表現できています。人が入ったことで、作品に動きができました。次は、もっと人に近づいてみてください。

中学生以下部門：優秀賞『夏のノロッコ』

青空の下、今年 20 周年を迎えたノロッコが十勝岳連峰を横目に水田の中を駆け抜けていく。

撮影者 長谷川 空生さん

住所 旭川市在住

撮影場所 中富良野町 H30 年 7 月



【講評】夏の爽やかな一日をうまく表現できています。グリーンの水田と青空という組み合わせも良かったですね。空にもう少し表情があれば、さらによくなります。

高校生部門：最優秀賞『150 の夏』

今年は北海道命名 150 年と、記念式典が行われ、多くの人々に祝われました。そして、富良野線の代名詞であるキハ 150 系も青空の下、輝いています。この年をスタートと共にこれからも輝き続けてほしいと願っています。

撮影者 大島 涼平さん

住所 美瑛町在住

撮影場所 旭川市 H30 年 8 月



【講評】作者の富良野線への愛を感じる作品です。ストレートに列車を主役にしたことで狙いが明確になりました。いつまでもこの風景が残ることを願います。

高校生部門：優秀賞『支え』

手前には、民家に植わっていた花を、バックには、中富良野駅近くにあるラベンダー畑に植わっているラベンダーを写し、センターには、臨時列車で富良野の観光を支えていると表現したく思いこのアングルで撮影しました

撮影者 柏 和篤さん

住所 恵庭市在住

撮影場所 中富良野町 H30年7月



【講評】街の中を走る富良野線の雰囲気がうまく表現されています。少しゴチャッとした現場の感じも伝わってきて、リアリティのある作品ですね。

高校生部門：優秀賞『そびえる山々と富良野線』

雄大な自然の中を走行する富良野線を山や草木花を入れて撮影することで表現しました。

撮影者 石田 萌々子さん

住所 東京都足立区在住

撮影場所 中富良野町 H30年8月



【講評】雄大な山々をバックにのんびりと走る富良野線の良さが出ています。画面が少し傾いているように見えるので、右の電柱はカットしても良かったですね。

鉄道ファン部門：最優秀賞『雪の華に見送られて』

2017年は冬が早くやってきました。10月末、夜半から降り続いた雪が木々に付着して素敵な風景を作ってくれました。前日までの紅葉した木々に一変して真っ白な「雪の華」を実らせました。ワクワク、ドキドキしながら列車が来るのを待っていると、現れた車両は富良野線では珍しいキハ40型気動車でした。国鉄時代から道内を走り続けている車両を、優しく見送るように見えます。寒かったけど心がホッコリしました。

撮影者 宮川 和典さん

住所 神奈川県川崎市在住

撮影場所 美瑛町 H29年10月



【講評】初雪の美しさは、毎年みてもドキドキします。それでも淡々と列車は走り続ける。そんな雰囲気非常にうまく表現できています。

鉄道ファン部門：優秀賞『思い出の夏』

30年前、大雪山系を縦走してたどり着いた十勝岳、20周年を迎えたノロッコ号、私の富良野の思い出の夏に今年はラベンダーの淡い紫色を重ねて。

撮影者 渡辺 康正さん

住所 東京都世田谷区在住

撮影場所 中富良野町 H30年夏



【講評】非常にオーソドックスで安定感のある構図で、うまくまとまっています。ノロッコであったが故に列車が黒くなってしまったことが悔やまれます。

鉄道ファン部門：優秀賞『夏空の下』

夏の定番「ノロッコ」、大勢の観光客を乗せ、夏の日差しと風を受けて、富良野の街を出発。20周年、やや老体に鞭打っての感も否めませんが、少しでも長く活躍することを祈って。

撮影者 佐藤 恵一さん

住所 国立市在住

撮影場所 富良野市 H30年8月



【講評】富良野線ならではの景観の中を走るノロッコらしさがよく出ています。すこし窮屈な印象があるので、もう少し引いて、周辺を広めに入れると、さらによくなったでしょう。

鉄道ファン部門：優秀賞『青空とヒコーキ雲』

晴れた朝に、鹿討駅近くで撮影しました。青空にヒコーキ雲が見え、素晴らしいロケーションでした。

撮影者 能登 喬也さん

住所 札幌市在住

撮影場所 中富良野町 H30年7月



【講評】飛行機雲がいいアクセントになってくれましたね。車体の色と雲の白がシンクロして、面白い表現になっていると思います。



特別賞：上川総合振興局長賞『小さな駅にも春が来た』

1両分のホームしかない小さな駅、北美瑛駅。桜は小さな駅にも等しく春を届けてくれる。そんなことを想いながらシャッターを切りました。

撮影者 岩田 壮一さん

住所 東京都武蔵野市在住

撮影場所 美瑛町 H30年5月



【上川総合振興局長からのコメント】長い冬が終わり、待ちに待った春の到来を表す桜の高揚感と、移ろいゆく季節の中で変わらずある車両や駅とのコントラストに、富良野線の豊かな景観が見事に表現された作品と感じました。

特別賞：JR北海道賞『笑顔でピース！』

車内で女の子がたのしみにながめている所を、撮らせて頂きました。

撮影者 杉本 怜奈さん

住所 旭川市在住

撮影場所 ノロッコ号車内 H30年6月



【JR北海道旭川支社長からのコメント】「富良野・美瑛ノロッコ号」車内での子供達の笑顔から旅行の楽しさや列車の楽しさが伝わってくる作品でした。ありがとうございます。